

医療人類学4班発表
～未来、私たちと胃ろう～

4班

「人間が生きものの生き死にを
自由にしようなんて
おこがましい
とは思わんかね
……」



おこがましいとは思わんかね
……」

現在の胃ろう決定に対するジレンマ

1. 患者の尊厳が守られるか、意思表示の難しさ(法整備)
2. 家族の医療費、介護、患者に代わる意思決定の負担
3. 医師、ケアマネージャーの立場(訴訟回避)

今すぐに答えを出すのは難しい。

胃ろうの効果の更なる検証をし、それを踏まえた上での法整備、さらには、胃ろうに対する考え方がある程度一般化されるのを待つ必要がある。

50年後の日本...

食べる＝生きるという考えが衰退し、
人々は胃ろうに抵抗が
なくなっていた

50年後の日本

しかし、日本の医療費は切迫



胃ろうをすることがステータスになっていた
お金持ちは私費で胃ろうをして生き続ける、
公的扶助はないので、一般人は胃ろうできない

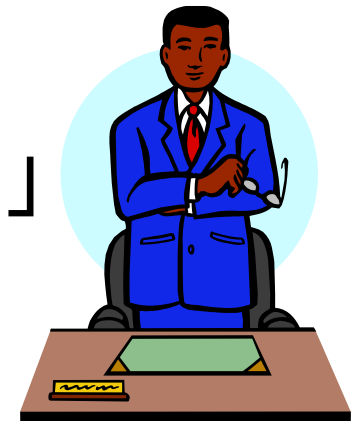
胃ろうをしている人は羨望のまなざしで見られるよ
うに

50年後の日本

- しかしそんな中でも...
- 食べることの重要性を訴えかけている人々も、少数だが、いた。「健康的に食べることが、医療費節減にもつながるはず！」
- だがそれらは少数意見、胃ろうのファッション性を前にしては無力であった...

50年後の日本

- Aさん 「食べることは、少子高齢化によって忙しさが極限まで達して、生産年齢人口の忙しさが極限まで達した現在の日本において、意味のないことです。食べられなくなったら胃ろうは、昔は保険で誰でも出来ましたが、今は、金持ちのステータス。私費で胃ろうを選択して、長生きするのは、会社社長である私にとって当然のことですね。」



50年後の日本

- Bさん「確かに仕事が忙しすぎて、食べ物をたべることなんて忘れて久しいね...食事はサプリとか、栄養機能食品のクッキーみたいなものや、ゼリー飲料、チューブ食が多いかな。時間短縮になるし、安いし、持ち運びにも便利なんだ。胃ろう？金持ちたちはしてるらしいね...昔は貧乏でも出来たらしいけど、今は保険がでないから、俺には無理かな。口に入れられなくても生きること自体に抵抗はな



50年後の日本

- Cさん「人々が忙しさにかまけて食事をとらなくなったから、日本の医療費はさらに切迫してしまったのではないのでしょうか。やはり、食べ物を食べることと、生きることは、切り離せないことです。また、日本人はいま、QOLについて全く忘れてしまっています。医師兼料理研究家である私は、胃ろうせずに死ぬことを望みます。



さらにそれから50年の
時が流れた

今から100年後の日本...

100年後の日本

- 胃ろうをして生き延びることが社会的ステータスになって久しい
- だが、一方ではいつまでも生き延びられる胃ろうを前にして、人々は〈生死の境目〉を見出すことができずに困惑していた。

100年後の日本

- 死
 - 胃ろうによって生き延びることができる人からは、死という概念が消え失せてしまった。
- 生死の境目がなくなると、人類はどうなってしまいか？

100年後の日本

- 社会的なステータスでもある胃ろうは、高級品となり、成長産業となった。メーカーには投資が行われ、現在流通している胃ろうは何十年も前に全自動コンピュータ管理型となった。
- 手動の、自動管理されていない胃ろうは、介護者の手間が大きいため、すでに市場から淘汰されるようになった。

100年後の日本

- 胃ろうメーカーは沢山出てきたが、人間の心臓に今やとってかわるほど重要となった、自動胃ろうの管理中枢部(コンピュータの脳みそ)は、人間の新しい生命線ともいえるため、確かな技術と信頼をもっていた日本企業・イロー(IROH)がほとんど独占的に担うこととなった。

日本企業イロ一(IROH)の 某技術者

- その某日本企業の設計部に、一人の技術者がいた。彼はまた、実の父親を胃ろうで活かし続けていた。
- もはや生気を失った親の顔を見ながら...

日本企業イロ—(IROH)の 某技術者

- 某技術者「死とは何か？人間の存在の限界とは？」
- 彼は日々、頭を悩ませていた。
- 彼は胃ろう管理システム設計の責任者になった時、彼はこの問題に対する解決策を見出すため、ある強硬手段に出た——

「人間が生きものの生き死にを
自由にしようなんて
おこがましい
とは思わんかね
……」



おこがましいとは思わんかね
……」

場合によっては
おこがましいです！

まとめ

- そもそも人間の医療の目的とは、人間が子孫を残し、出来るだけ健康にライフサイクルを送れるようにすることではないか。
- 胃ろうは上記に反することが多々ある。(例:回復の見込みのない植物状態での胃ろう)
- 胃ろうはあくまで選択肢の一つであり、食べられるようになるまで一時的に使う確率が高かったり、本人や代理人の強い希望がある場合は、保険外の私費で行うべき。決して当たり前のことではない。

おわり



ありがとうございました！